



作品の先にいる人の 輝く笑顔を思い浮かべて

依頼主の人生に寄り添う
ジュエリー作家

山田 ひかり さん (堀金)



築70年の納屋を改築したジュエリーのアトリエ兼ショップ「8家」。自らの感性と人との関わりを大切にしながら独自の道を切り開く山田ひかりさんに話を聞きました。

ジュエリーで思いを繋ぐ手伝い

昔からアクセサリーが好きで、次第に既製品では物足りなくなりました。ジュエリーの専門学校で金属加工を学びました。卒業後は都内でアパレルショップ向けのアクセサリー企画制作に携わっていましたが、流行りを追いかけるのではなく自分がかわいいと思う物を作りたいと思うようになりました。20歳の時に「東京での生活を満喫して、あと5年したら別の場所へ行く」と決めていたこともあり、独立と移住を決意。使われていなかった祖母の家の納屋を改修し、2018年に8家をオープンしました。東京では作品制作がメインでしたが、8家ではリメイクや修理、オーダー品の制作など、依頼を受けての仕事がほとんどです。祖母の婚約指輪を孫の婚約指輪にリメイクするなど、思い出の詰まった物を今使える形に作り変えることで、思いを繋ぐお手伝

いができることに喜びを感じます。オーダーを受けて作るからこそ、お客さんの喜ぶ顔を想像でき、人との関係を大切に紡げるのが8家の良さです。

こだわり抜くためのマイペース

実は、最初から人との関わりを重視していた訳ではありません。オープンから1年半後には第一子が生まれ、夫は単身赴任という状況で、子育てと仕事を一人で両立しなければならず、余裕がなく苦しくなることもありましたが、人と関わることは好きでした。一方で苦手意識も抱いていました。そんな時、あるセミナーに参加し、自分の過去や素直な気持ちを見つめ直し、多様な参加者と話す中で、「人との関係を大切に一緒に作っていききたい」とアトリエの方向性が変わりました。

さらに、子育てのために一時仕事をスローペースに制限しました。すると子どもと余裕をもって接することができるようになると同時に、仕事では細部までこだわり、ゆっくりと制作に向き合えるようになりました。うれしいことに、「注文から時間がかかってもいいから、ひかりさんにお願したい」と、依頼が途切れることはありませんでした。現在は制作が間に合わないほど注文をいただけるようになったことから、子どもを保育園に預け、仕事の時



英語を学び海外生活をしたり、東京から長野までサイクリングをしたりと、やりたいことはやる行動力の持ち主。現在、事業拡大の資金源にしようと、ライブ配信で収入も得ている。「どこにでも行けるし、なんにでもなれる。これからの人生が楽しみ」とほほ笑む。

MEMO
○アトリエ8家
家のようにくつろいでもらえるお店という思いが込められている。
営業時間：月・火・金・土（2月までは冬季期間で完全予約制）
場所：堀金烏川4665

間を確保しています。今後の目標は事業を大きくすることです。今は一人で経営しているため、できることや届く範囲に限られますが、ネットでのオーダーシステムの導入など、やりたいことがたくさんあります。人を雇って手が回らない所はお願いするなどし、自分のペースを大切にしながら、ジュエリーを通じていろいろな人生に寄り添いたいのです。

◀ 8家Instagram

毎日笑顔で楽しく！火に込めた願い

1月12日 穂高幼稚園三九郎



穂高幼稚園では本年度「夏の夜の集いでともすちようちの火」「生活で使う大切な火とともしび」「三九郎に願いを込めた大きな火」の3つの火を大切に保育を行っています。このほど三九郎が行われ、約70人の園児らが燃え盛る炎に新しい年への期待と願いを込めました。やぐらは冬休み明けから地域住民の力を借りて園児らが制作。自宅から正月飾りを持ち寄ったり、書き初めをしたり、前日にはまゆ玉づくりを行うなど準備を進めてきました。年長児の鈴木咲結ちゃん(6)は「やぐらに飾ったわらがすぐに燃えてすごかった。毎日楽しく遊べますように」と、立ち上がる煙を見上げ願っていました。

冬の里山を案内 体験談に興味津々

1月28日 ハンターと歩く里山

さとぶろ。と安曇野市猟友会（以降、猟友会）は、本年度7回目となる「ハンターと歩く里山」を開きました。参加者12人が現役ハンターの案内のもと、穂高牧の山林で獣の足跡を探したり、狩猟のコツを教わりながら里山歩きを楽しみました。このイベントは、里山や狩猟に興味を持ってもらい、ハンターになるきっかけになればと企画されたもの。実際の狩場を歩きながら聞く体験談に参加者からは質問が飛び交っていました。

昼には、猟友会特製のジビエ汁が振舞われ、脂がのったイノシシの肉の味に舌鼓を打っていました。参加した渡邊優作さん（41・穂高）は、「ハンターの貴重な生の声が聞いて、とても勉強になったし、なりたい気持ちが大きくなった」と話してくれました。



夢の贈り物をしっかりキャッチ

1月24日 大谷翔平選手 グローブ紹介式



米大リーグで活躍する大谷翔平選手から全国の小学生に贈られたグローブが、市内小学校10校に届きました。豊科南小学校ではグローブ紹介式が行われ、体育館に集まった全校児童700人が、大谷選手を紹介する映像を鑑賞した後、代表の6年生6人がグローブを使って始球式を行いました。

始球式を行った山崎翔太さん(12)は、「大谷選手からのグローブを手にして気持ちが上がった。大切に使用していきたい」と笑顔で話してくれました。奥原竜司校長は、「大谷選手が夢を叶えたように、実現に向けて頑張る気持ちを大切にしたい」と児童に呼びかけていました。

